

中国エンボディード AI ロボット産業の全体像

中信証券株式会社（CITIC Securities）

チーフ製造産業アナリスト 劉海博（Liu Haibo）

チーフテクノロジー産業アナリスト 許英博（Yingbo Xu）

【本稿要旨】

- 2025 年を「量産元年」とする市場の本格的な幕開け。中国国内外のトップロボット企業が量産を積極的に推進しており、市場は急拡大する見込だ。
- 中国政府はエンボディード AI を「未来産業」と明確に位置づけている。2023 年以降、国と地方が一体となり強力な支援政策を次々と発表しており、産業発展の方向性や目標を具体的に示している。
- 資本市場も活況であり、2020 年以降の資金調達量は 250 件を超える。当初はロボット本体への投資が中心だったが、近年は基盤モデルや制御技術へと関心が移行している。これは産業が成熟しつつある証拠である。
- Tencent や Meituan 等のテック大手は、戦略投資やスタートアップとの産業連携でエコシステムを形成しながら、社内に専門チームを設立して研究開発も推進しており、全方位で事業を深化させている。

はじめに

人工知能の急速な発展に伴い、生成 AI（Generative AI）モデルが徐々に普及してきている。物理的世界と融合したエンボディード AI（Embodied AI）の進化も加速しており、ロボット産業は従来の運動制御技術から派生した各種専用ロボットの時代から、エンボディード AI が牽引する汎用型ロボットへと移行している。その代表的な製品は「ヒューマノイド（人型）」にとどまらず、「エンボディード AI ロボット」という定義がより適切である。2025 年はエンボディード AI ロボットの量産元年となり、ベンチャー企業が雨後の筍のように誕生し、既存大手企業も相次いで参入している。本レポートでは、エンボディード AI ロボット産業の状況を体系的に整理し、今後の発展の方向性を見極める。

1. 量産化時代の幕開け

従来のサービスロボットや産業用ロボットとの共通点は、いずれも基本行動（2000 年以前）→センサーフュージョン（2000～2021 年）→マルチモーダル知覚によるエンボディード AI（2022 年現在）という技術的進化の段階を経て発展してきた点にある。一方、相違点としては、サービスロボットや産業用ロボットが主に垂直特化型の応用シーン（清掃、配膳、巡回点検、生産製造など）に対応するのに対し、エンボディード AI の決定的

ブレイクスルーは、身体性（embodiment）を持つことで、汎用タスクへの適応能力を実現した点にある。その結果、より複雑な動的環境に対応でき、マルチモーダルな相互作用と汎化能力を可能にしている。

図表1：サービスロボット・産業用ロボット・エンボディード AI ロボットの全体像整理

サービスロボット、産業用ロボット、エンボディード AI ロボットの技術進化はいずれも行動→知覚→相互作用へと反復									
行動 知覚 相互作用	サービスロボット			産業用ロボット		エンボディード AI			
	掃除ロボット	芝刈りロボット	プール清掃ロボット	協働ロボット	6軸ロボット	四足ロボット	車輪式 ヒューマノイド	脚式ヒューマノイド	
	1970s ランダム衝突方式1995 ナビゲーション・障害物回避2016	境界線認識型1995 境界線不要型2021	有線ケーブル型1983 ワイヤレス型2012	シンプルな搬送1995 センサーフュージョン2008	ティーチング・プレイバック1968 センサーフュージョン2005	基本動作1968 センサーフュージョン2005	基本動作1995 センサーフュージョン2008	基本動作1972 センサーフュージョン2000	
	2020s エンボディード ロボットアーム2024	モジュール化2023	完全スマート化2023	マルチモーダル知覚2020	マルチモーダル知覚2020	エンボディード AI 2023	大脳・小脳 ブレイクスルー2023	大脳・小脳 ブレイクスルー2023	
特徴	家庭・商業シーンの自動化、垂直化シーンでの清掃・メンテナンス作業を高効率で完遂			高精度製造と危険環境代替、生産効率と品質の向上		マルチモーダル相互作用と汎化能力、人間とロボットの協働新エコシステムを構築			
シーン	家庭・商業の屋内清掃			人間と協働して工業用フレキシブル生産を完遂		巡回点検/セキュリティ/救助	物流仕分け/精密組立	工業/医療/家庭サービス	
2024年 出荷台数	2060万台			>12万台		約3万台	<1万台	<1万台	
単価	300-1200ユーロ			5-10万円		1-5万円	10-30万円	20-50万円	
2028E 出荷台数	>2500万台			>20万台		>50万台	>50万台	>100万台	

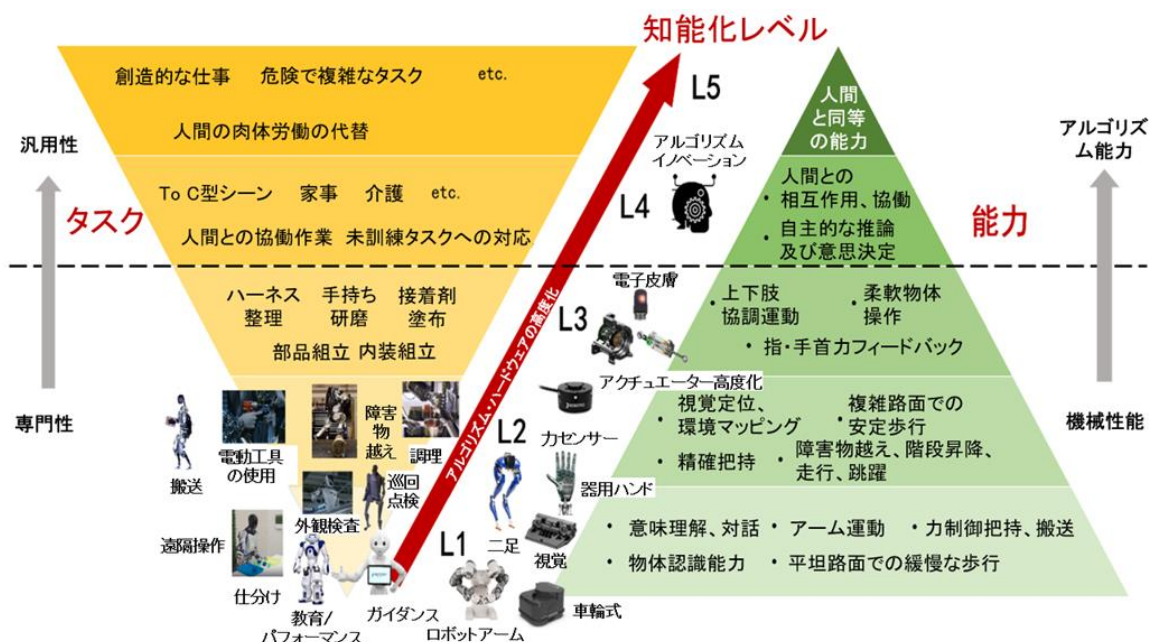
（出所）後述各社の公式サイト: Ecovacs、Segway-Ninebot、Kuka、Yarbo、Trendwo Technology、iRobot、Dobot、Unitree、Tesla、miRBase データベース、Dobot 目論見書、Wybotics 目論見書、Segway-Ninebot 決算資料、CITIC Securities 研究部予測。

エンボディード AI ロボットは能力に応じて5つのレベルに分類され（図表2）、レベルが上がるほど知能化の程度が高まり、同時にハードウェアの性能とアルゴリズムの複雑性に対する要求も高くなる。現時点では、エンボディード AI ロボット全体がL2の初期段階にあり、人間の常時監督下で、限定的な基本動作を実行できるレベルである。一部メーカーのデモ動画では、より複雑なタスクをこなすロボットが登場するものの、依然として大量の人的介入（遠隔操作を含む）を必要としている。こうした中、業界トップ企業は量産・商用化が可能なL3レベルへの到達に注力している。その具体的な動向として、2025年のTesla All-Hands Meetingにおいて、イーロン・マスク CEO は、Tesla Optimus を2026年下半期から外部販売を始める可能性に言及し、その時点でTesla Optimus は人間の監視なしに、エンドツーエンドでタスクを完遂できる見込みであると述べた。

2022年のTesla Optimus のプロトタイプ発表は、エンボディード AI 産業が一般にも広く認知され、予想以上の進展を見せる中、2022~2024年にかけてFigure AI や智元機器人（Zhiyuan Robot）などロボット系スタートアップ企業が相次いで誕生した。さらに、BYD やSeresといった既存自動車メーカーも参入した。Xiaomi やHuawei など大手テクノロジー企業も事業展開を進めている。このように、エンボディード AI ロボットはテクノロジー産業における次世代の主要分野として確立され、参入企業のプレイヤーの多種多様化

が進んでいる。2025 年は業界トップ企業が量産に入った年でもある。この状況は NEV（新エネルギー車）の発展経過と比較すると、エンボディード AI のロボット産業は、現在プレイヤーの増加や、製品の商用化が進み、まさに 0 から 1 へのブレークスルーを実現する勃興前夜にある。今後、ロボットの性能向上に伴い、まずは工場での活用が進み、将来的には家庭にも応用範囲を段階的に拡大させ、急速に普及していくことが見込まれる。中国国内外のトップロボット企業が量産を積極的に推進しており、本格的に量産の幕が開かれた。イーロン・マスク氏は、2025 年も生産能力の構築を継続し、60 ヶ月以内に年産 100 万台規模の達成を目指し、2026~2027 年には生産台数が毎年 1 桁ずつ増加すると予測している。一方、Figure AI は 2025 年に初の自動化生産ライン BotQ を導入し、年産 1.2 万台のロボット生産が可能になり、4 年以内に生産能力を 10 万台まで引き上げる計画である。これらのトップ企業の計画から、エンボディード AI ロボットの生産量は、2025 年に大幅に加速し、本格的な量産時代の幕が開かれたといえる。

図表 2：エンボディード AI ロボット能力レベルモデル（現状は全体的に L2 初期レベル）



（出所）後述各社公式サイト：Tesla、UBTECH、ABB、Agility Robotics、SoftBank Robotics、Unitree、Boston Dynamics、Segway-Ninebot、Robotiq、Shadow Robot、Agibot Robotics 発表会、CITIC Securities 研究部。

まずは、工場での応用が先行し、将来的には生活・家庭用途へと拡大する予測である。工場の環境は比較的単純で変化が少ないため、ロボットの反復作業に適している。エンボディード AI ロボットは、従来の産業用ロボット以上の機能を実現する可能性がある。例えば倉庫での物流管理や階段昇降による貨物搬送などが挙げられ、今後ユーザー側の技術的進歩が新たな需要を生み出す可能性もある。加えて、エンボディード AI ロボットは、高リスクな高反復作業にも従事でき、消火活動や有害物質の除去など人間にとって危険な作業現場において、人に代わる役割が期待される。量産化によるコスト削減が進めば、家庭への普及も期待される。例えば、エンボディード AI ロボットが教育目的で人間との対

話をシミュレートしたり、医療アシスタントとして高齢者に寄り添い、生活支援、育児、調理など日常的な家事を担ったりすることが想定される。

図表3の中で、中間的シナリオでは、2030年世界エンボディードAIロボットの市場規模は、4,000億元に迫ると予測されている。各社の生産量ガイダンス及び当社の産業化進展に関する判断を総合すると、楽観的、中間的、悲観的シナリオにおいて、2030年の世界エンボディードAIロボット出荷台数はそれぞれ、602、263、97万台に達すると見込まれている。エンボディードAIロボットのコストは、スケールメリットや部品の国産化の進展により低下が見込まれる。これにより、ロボット応用の経済性が高まり、大規模な普及が後押しされると予想されている。出荷台数および平均単価の想定を総合すると、楽観的、中間的、悲観的シナリオにおいて、2030年のエンボディードAIロボットの市場規模は、9,030、3,945、1,448億元に達すると予測されている。

図表3：2025~2030年エンボディードAIロボット出荷台数および市場規模予測

出荷台数予測 (万台)	2025E	2026E	2027E	2028E	2029E	2030E
中間的シナリオ	2.6	14	31	77	155	263
海外	1.2	10	24	60	120	200
Tesla	0.6	5	12	30	60	100
非 Tesla	0.6	5	12	30	60	100
中国国内	1.4	4	7	17	35	63
Agibot Robotics	0.5	1	2	4	10	15
UBTECH	0.12	0.3	0.6	1	2	4
XPENG	0.02	0.1	0.2	0.6	1.5	3
ROBOTERA	0.02	0.1	0.2	0.6	1.5	4
Galbot	0.01	0.05	0.1	0.4	1	2
その他国内企業	0.68	2.2	4.2	10	19	35
ロボット平均単価 (万元)	50	40	30	25	20	15
エンボディードAIロボット市場規模 (億元)						
中間的シナリオ	128	550	939	1,915	3,100	3,945

(出所) Tesla 決算説明会、GGII、CITIC Securities 研究部予測; 注: 1) 楽観的シナリオはエンボディードAIロボットの商用化が予想を上回り、下流の需要が牽引して、より大規模な量産が実現する場合を想定、2) 中間的シナリオは商用化が予想通りに進み、各メーカーが現行ガイダンスの生産量を達成する場合を想定

2. 政策と資本の共鳴

(1) 資本：高まる熱量、多様なエコシステムが新興プレーヤーを育成

烯牛データ^{※1}やJINGデータ^{※2}などのプラットフォームの公開情報に基づき、当社の統計によると、2020年以降、中国全土で行われたエンボディードAI業界の資金調達件数は、250件以上ある。そのうちロボット本体が72%、エンボディード基盤モデルが16%、器用ハンドが12%を占めている。2020~2024年の資金調達件数の成長率は、CAGRで40%超を記録した。さらに2025年第1四半期の資金調達件数は、既に2023年の通年レベルに

※1 <https://www.xiniudata.com/>

※2 <https://www.jingdata.com>

迫った。

初期段階では、市場の資金調達にはエンボディード AI の本体企業が主導していた。2020~2023 年、エンボディード AI 本体企業の資金調達案件が 80%以上を占め、エンボディードモデルおよび器用ハンドを大幅に上回った。この期間、業界を代表する本体プレーヤーとして、国内では傅利葉（Fourier Intelligence）、Unitree Robotics、Deep Robotics など、海外では Agility、Sanctuary AI、1X 等が相次いで初期資金調達を完了した。2023 年以降、エンボディード基盤モデルおよび器用ハンド企業の資金調達件数が徐々に増加している。市場の関心が、本体そのものから、より高度な運動制御ソフトウェアや高度な動作性を持つハードウェアへシフトしていることは、業界が商用化に向けて成熟段階へ進んでいることを示唆している。

2023~2024 年にかけて、国内外で資金調達が急増し、エンボディード AI の時代に突入したことを示している。この急増の背景には、トップ企業による牽引、産業政策の実施、そして投資リターンの可視化があげられる。具体的には 2023 年 7~8 月にかけて、国内メーカーが相次ぎ製品デモを発表した。傅利葉（Fourier Intelligence）の GR-1、智元机器人（Zhiyuan Robot）の遠征 A1、Unitree Robotics の H1、达闼机器人（CloudMinds）の XR4 などがその代表例である。また、World Robot Conference（世界ロボット大会）、World Artificial Intelligence Conference（世界人工智能大会）といった大規模な展示会の開催により、各社への注目度が一層高まり、ベンチャー投資をはじめとするプライマリー市場の熱気を更に押し上げた。

(2)政策：継続的な注力、「方向性+時間+目標」を多角的に明確化

2023 年第 4 四半期~2024 年第 1 四半期にかけ、相次いで政策発表を行なった。2023 年 9 月、工業情報化部弁公庁が「2023 年未来産業イノベーション課題公募制度に関する通知」を公表し、ヒューマノイドロボットが 4 つの重点分野の一つに選定され、エンボディード AI 関連政策の「第一弾」が打ち出された。2023 年 11 月には、工業情報化部はさらに「ヒューマノイドロボットのイノベーションに関する発展指導意見」を発表し、2025 年までにヒューマノイドロボットのイノベーション体系を確立し、2027 年までに国際的な影響力を持つヒューマノイドロボット産業エコシステムを構築する方針を示した。2024 年 1 月には、工業情報化部は教育部、科学技術部等 7 部門と共同で「未来産業イノベーション発展推進に関する実施意見」を発表した。サーボモーター、運動制御、器用ハンド、電子皮膚といったコア技術のブレークスルーやスマート製造、家庭サービス、特殊環境作業等の分野での応用推進が重点課題として掲げられた。このように、中国国内のエンボディード AI 政策は「方向性の決定→時期の設定→目標の策定」という三つの段階が完了し、強力な体制が整ったことを示唆した。

2025 年、エンボディード AI が初めて政府活動報告に明記された。同報告の「2025 年政府活動任務」の章において、エンボディード AI の概念を、「地域の実情に応じた新しい品質の生産力の発展、現代化産業体系の構築加速」の段落で言及している。具体的には生

物製造、量子科学技術、エンボディード AI、6G などの「未来産業」の一つとして位置づけられ、これらの分野への投資増加メカニズムを確立すべきと指摘している。このように、エンボディード AI を明確に「未来産業」と定義しており、これは工業情報化部が従来ヒューマノイドロボット産業に対して示してきた定義と一致している。したがって、エンボディード AI の定義は、ヒューマノイドロボットよりも広範な概念として捉えるべきと考える。ヒューマノイドロボットだけでなく、四足歩行ロボットや車輪式ロボットなどの多様な形態を含むべきであると考え。

また、2023 年以降、地方レベルのロボット政策は全国へ展開している。当社の統計によると、2023 年 1 月以降、全国で少なくとも 12 の省・直轄市がエンボディード AI 関連政策を発表し、累計地方政策総数は既に 30 項目を超え、計 6 つの地域型産業イノベーションセンターが設立されている。

2023 年以降の各地域のロボット関連政策を集計した結果、上海、北京、広東は、政策発表の時期が早く、政策数も相対的に多く、他地域をリードしている。上海は最も早く 2023 年 1 月に「上海市スマートロボット模範企業と応用シーン」を発表し、3~5 つのスマートロボット特色産業群の構築を提起した。広東省深圳市は 2023 年 5 月、汎用型エンボディード AI ロボットの研究開発・応用推進を提起し、政策で「エンボディード AI」の概念に最も早く言及した都市の一つとして見られる。北京は 2023 年 11 月、国家・地方共同建設エンボディード AI ロボットイノベーションセンターを設立した。同センターは UBTECH Robotics、Xiaomi Robotics 等の機関が共同設立したもので、中国国内で最も早期のヒューマノイドロボットイノベーションセンターの一つとなっている。

3. テック大手のエンボディード AI 事業の全面的深化

インターネット大手各社が戦略投資による「陣取り合戦」を展開している。数あるインターネット企業の中で、Tencent は比較的早い段階から戦略投資を行っており、2017 年および 2018 年にそれぞれ LEJU Robotics と UBTECH Robotics へ投資し、2025 年 3 月には智元機器人（Zhiyuan Robot）へのリード投資も実施した。Meituan はロボット分野における投資範囲が広く、Unitree Robotics や Galbot 以外にも、2020 年以降、Pudu Robotics、Gaussian Robotics、FLEXIV、Yinghe Robotics、Libiao Robotics、未来機器人（Future Robotics）、九識智能（Jiushi Intelligence）など、多数の企業へ投資している。

戦略投資に加え、テック大手は完成品メーカーとの産業連携の可能性を積極的に模索している。（図表 4）2024 年 4 月、UBTECH Robotics の Walker X が Baidu の文心一言（ERNIE Bot）大規模モデルと接続し、海外の Figure 01 が OpenAI GPT モデルと連携した事例が見られる。2025 年 2 月には、Baidu Intelligent Cloud が智元機器人（Zhiyuan Robot）との連携を発表し、百度風投（Baidu Ventures）は 2023 年 5 月に Zhiyuan のシリーズ A 資金調達に参加した。さらに、テック大手と完成品メーカーは実際の活用面でも少なからず連携の余地がある。例えば、2024 年 9 月に、Meituan は Galbot ロボットが Meituan 医薬品ブースで試験運用される様子を公開した。

また、テック大手は自社の研究チームを最大限活用し、社内で一流のロボット開発チームも構築している。Tencent および ByteDance はそれぞれ 2018 年と 2020 年に Robotics X Lab およびロボティクス研究チームを設立した。Tencent Robotics X Lab は設立以来、複数のエンボディード AI 製品を発表しており、2024 年 9 月に発表された居住環境ロボット「Ollie (小五)」は四脚と車輪を組み合わせた設計で注目を集めた。ByteDance Robotics Research は 2023 年 12 月と 2024 年 10 月に、生成型 VLA 大規模モデル GR-1 および GR-2 を順次発表した。長期的な社内チームの育成は、独立して起業する優良企業の創出にもつながっている。既にトップクラスのエンジェルファンドから投資を獲得した Atribot (星尘智能) および源昇知能 (源升智能) は、いずれも創業チームが Tencent Robotics X Lab 出身である。

おわりに

2025 年はエンボディード AI ロボット産業の量産元年である。世界各国の政府、テクノロジーや製造業の大手企業、サプライチェーン企業、研究機関、そして資本は積極的に参入しており、群雄割拠の様相を呈している。

エンボディード AI の「DeepSeek モーメント」が到来すれば、エンボディード AI ロボットの台頭が次なるテクノロジー産業の大きな波をもたらすであろう。新技術がもたらす前例のないチャンスとして、エンボディード AI ロボットの今後の発展を高く注目すべきと考える。

以上

図表4：各テック大手のエンボディード AI 分野における事業展開状況

Tencent 騰訊 Robotics X/ Agibot/ UBTECH/ LEJU	(\$) 対外投資		🔍 自社事業		🚩 「Tencent系」	
	LEJU Robotics UBTECH Agibot Robotics 2017.08 2019.04 2018.05 2025.03 (リード投資)(リード投資)	Robotics X ラボ 2018 (設立) The Five 2024.9登場	Astribot 源昇知能 2022.12 (設立) 2024.12 (設立)			
ByteDance 字节跳动 Robotics Research/ Booster Robotics/LEJU	🤝 産業連携		🔍 自社事業		🚩 「Byte系」	
	LEJU Robotics 2024.12 (登場) 豆包大規模モデル搭載、4S店販売ガイドシーン	2020 年から ロボット分野の探索を開始、Robotics Research チームは既に複数の論文を発表 GR-2生成型 VLA モデル	Booster Robotics BOOSTER ROBOTICS 2023.06 (設立) 創業者程昊氏は以前 ByteDance 飛書 (Lark) プロダクト副総裁を務めた			
美团 ロボット研究院 /Galbot / Unitree Robotics	(\$) 対外投資		🔍 自社事業		🤝 産業連携	
	Galbot 2024.06 (リード投資) Unitree Robotics 2017.08 2019.04	2022年11月、Meituan ロボット研究院を設立、既にドローン、配送車等の製品を開発	2024年9月、Galbot ロボットが美团医薬品 (Meituan Pharmacy) フースで「試験運用」されるシーンを公開			
LEJU Robotics 盤古大規模モデル搭載「夸父」がHDC2024に登場 ZHAOWEI Machinery & Electronics 17自由度器用ハンド TOPSTAR 産業用ロボット HUAWEI 全球具身智能产业创新中心 (共15家公司) TOPSUN 1X Tech.へ出資参加 EFORT 産業用ロボット HCFA “YOLO”游龍01 深圳市大族機器人 (Han's Robot)、嘉彰科技 (Moying Technology)、自交量機器人 (Autonomous Variable Robotics)、普維特達 (Husong Xunda)、深圳普成工業控制 (Shenzhen Huacheng Industrial Control)、北京創新樂知信息技術 (Beijing Chuangxin Lezhi Information Technology)、數字華夏深圳科技 (Digital Huaxia Shenzhen Technology)、北京中歐國際教育 (Beijing Chinasoft International Education)、浙江強腦科技 (Zhejiang Qiangnao Technology)、仙山奧卡機器人 (Foshan Aoka Robotics)						
Baidu 百度 RAL/ Agibot Robotics/ UBTECH	(\$) 対外投資		🔍 自社事業		🤝 産業連携	
	Agibot Robotics 2023.05 Galaxea AI 2025.04 2025.02 2023.11 Vita Dynamics 同社は2024年末に設立、チームには Horizon Robotics元副総裁等が参2025.01	Baidu Research Baidu ロボット・自動運転研究院 (RAL)はロボット応用、AR(拡張現実)、バーチャルシミュレーション等の方向で研究を展開 チームの論文は自動運転が中心	Baidu Intelligent CloudがAgibot ロボットと連携 2025.02 UBTECH Robotics Walker XがERNIE Bot(文心一言)と接続2024.04			
Alibaba Group 阿里巴巴集团 Damo Academy/Alibaba Cloud/ RoboterA/ LIMX Dynamics	(\$) 対外投資		🔍 自社事業		🤝 産業連携	
	RoboterA 2024.10 (リード投資) LIMX Dynamics 2024.07 (リード投資) Corenetic 2025.02 (リード投資)	達摩院 Alibaba Cloudが Qwen(通義千問)大規模モデルを産業用ロボットに接続2023.04	UDEER.AI Youlu Robotics (有鹿機器人)が Alibaba Cloudと共同でエンボディードAI大規模モデル LPLM-10Bを発表			
蚂蚁集团 ANT GROUP Ant Lingbo/ Galaxea AI	(\$) 対外投資		🔍 自社事業			
	Galaxea AI 2025.02 (リード投資) 2024.12 (リード投資) Astribot 2025.04 (リード投資)	Ant Lingbo Ant Lingbo Technology (蚂蚁蓝波科技)はAnt Group(蚂蚁集团)がエンボディードAI・ロボット事業を展開する主要プラットフォームであり、家庭、高齢者介護、医療・ヘルスケア等の分野に注力している。 現在、以下のポジションで採用を開始している:ヒューマノイドロボットシステム・応用ソフトウェアエンジニア、ヒューマノイドロボットハードウェア構造エンジニア、ヒューマノイドロボット運動制御ソフトウェアエンジニア、ヒューマノイドロボット完成品/ハードウェアプロダクトエキスパート等。 浦東除幕式2025.03				

Writer's Profile

中信証券株式会社 (CITIC Securities)

当社は 1995 年 10 月に設立。2003 年に上海証券取引所、2011 年に香港証券取引所に上場し中国初の A+H 株上場証券会社である。筆頭株主は China CITIC Financial Holdings Limited。

証券業務を中心にファンド、先物、外国為替、コモディティなど多岐にわたる総合金融サービスを展開。国内外の法人企業、機関投資家、富裕層、個人投資家まで幅広い顧客層に対応している。現在、独立事業子会社を 6 社擁し、海外 13 カ国に拠点、中国国内では 400 以上の支店・拠点を有す。China AMC（華夏基金）、CITIC Futures、China Renaissance Capital Investment、CITIC Securities Asset Management 等の主要子会社は、各分野でトップクラスの地位を維持している。

中国初の総資産 1 兆元超の証券会社であり、主要財務指標は 10 年以上連続で業界首位を維持。各事業で市場トップクラスを保持し、国内外の複数機関から数々の賞を受賞している。



劉海博 (Liu Haibo)

CITIC Securities 研究部 チーフ製造産業アナリスト

2010 年からセラーの研究に従事。2012 年中信証券研究部に入り、機械業界の研究を担当。2015 年 Asiamoney-China(A&B Shares)ベストアナリスト（工業）第 4 位。2014 年『新財富』（機械工業）ベストアナリストに入賞。2013 年『新財富』ベストアナリスト（機械工業）第 5 位。



許英博 (Yingbo Xu)

**CITIC Securities 研究部 チーフテクノロジー産業アナリスト、
マネージングディレクター、研究部門副責任者**

2007 年に CITIC Securities Research 部門に入社。2016 年、CITIC Securities 先端研究チームを創設し、中国証券市場において業界横断的な先端テクノロジーを主要研究対象とする、「データ産業チェーンと人工知能」「スマートカーとロボット」等の研究分野をカバー。2018 年以降、CITIC Securities のグローバルテクノロジー産業研究を統括し、60 名以上のアナリストから成るテクノロジーチームを率いて中米テクノロジー比較研究に従事。テクノロジー？テックハードウェア、ソフトウェア、自動車・新エネルギー、インターネット等の分野を継続的に追跡調査。17 年間の研究キャリアにおいて、複数回『新財富』ベストアナリスト第 1 位、Institutional Investor (II All China) ベストアナリスト第 2 位、Asiamoney ベストアナリスト第 2 位など、数々の賞を受賞。

✉ : research@citics.com

☎ : 010-6083 8888